

イヌワシ 保護増殖事業の 確認証授与を受けて



大森山動物園が取り組むイヌワシの保護増殖の仕事について、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」に基づき、国が定める保護増殖事業計画に適合している旨が確認され、2015年10月3日、環境省から確認証の授与がありました。

当園のイヌワシ飼育は、前身である千秋公園の児童動物園の時代、1970年に秋田県の鳥海山麓で保護された2羽のイヌワシ(うちオスの1羽「鳥海」は2016年1月現在も健在)から始まっています。イヌワシの飼育を45年近く継続している動物園は全国的にも珍しいものです。現在のよう繁殖に至るまでには、さまざまな失敗なども経験しての技術開発や知見の蓄積があったからです。粘り強く、熱心に挑戦する素晴らしいスタッフの存在なくしてあり得ませんでした。

現在、当園は全国動物園のイヌワシ種別繁殖計画のコーディネーターを務めています。今回の授与を励みに、動物園のイヌワシの保護増殖の必要性を再認識し、飼育園と協力しながら、生息域内保全を補完する安定した個体群づくり、またイヌワシ理解に結びつく展示やその解説をより一層充実させていこうと気持ちを新たにしているところです。

園長 小松 守

イベント レポート

Event Report



① 自然観察会 9月27日(日)

大森山動物園から大森山公園グリーン広場にかけて歩きながら、秋の植物や昆虫、野鳥を観察する「自然観察会」を開催しました。当日は天候にも恵まれ、参加者はドングリを拾ったり、フィールドビンゴで楽しんだりした後、拾ったドングリを動物園で飼育しているツキノワグマにあげて食べる様子を観察し、生息環境からそれぞれの役割(食物連鎖)について学びました。



ドングリを動物園で飼育しているツキノワグマにあげて食べる様子を観察し、生息環境からそれぞれの役割(食物連鎖)について学びました。

② 秋の動物ふれあいフェスティバル 10月11日(日)

大森山動物園の秋のイベント「秋の動物ふれあいフェスティバル」を開催しました。心配された天気は、午前中はなんとか持ちこたえ、人気のどうぶつパレードを予定通り実施しました。パレードでは、フンボルトペンギンなど6種類の動物に加えて、今回初めてフタコブラクダが参加。パレードの最後に登場した動物園で2番目に大きい動物のフタコブラクダが目の前を通ると、来園者からは大きな歓声が上がりました。

残念ながら昼から大雨となり、ウォークウイズのヒントを出すために登場した動物園のヒーロー「ミルヴェンジャー7」は、帰るお客さまを見送りながら肩を落としていました。



③ 秋フェスぞうさん特別編 10月12日(月・祝)

アフリカゾウの来園25周年を記念したイベントを開催しました。ゾウ屋外展示場に来園者と共に25種類の餌をケーキ風に盛りつけて、ゾウにプレゼント。25周年のエピソードを交えた解説も行いました。

また、「野生ゾウの未来と象牙を使った伝統文化の行方～象牙在庫処分の是非～」と題し、コンゴ共和国で長年アフリカゾウの調査や保全活動を行っている西原智昭氏に講演していただきました。野生ゾウの生活や象牙目的の密猟など、遠く離れた地域で起こっている問題について考えさせられる良い機会となりました。



④ 塩曳湧水生生物調査 10月17日(土)

園内にある天然沼(塩曳沼)で水生生物調査を実施しました。昨年に続き、市民ボランティアを募集し、子ども13名、大人10名の計23名が調査に参加。秋田淡水魚研究会と秋田県立新屋高等学校理科研究部に協力していただきながら、ボランティアの皆さんと一緒に地びき網や定置網を使った調査を行いました。今回は、希少魚類の1つであるゼニタナゴを採捕することができませんでしたが、参加者には、沼



に生息する貴重な魚への理解を深めてもらうと同時に、大森山公園の自然の豊かさを実感してもらうことができました。

⑤ どうぶつサイエンス 11月15日(日)

自然科学学習館との共同企画の「どうぶつサイエンス」を開催し、子ども15名、大人8名の計23名が参加しました。今回のテーマは「耳のひみつをさぐる」です。参加者は、動物の耳の形がどうなっているのか、園内の動物をじっくり観察しながらスケッチしました。また、フクロウの耳を間近で観察すると、左右で耳の位置が違うことが分かり、びっくりしていました。最後は子どもたちだけでグループを作り、耳の形がなぜそうなのかをみんなで考えて、発表してもらいました。



⑥ さよなら感謝祭 11月29日(日)

お客さまと動物への感謝を込めて「さよなら感謝祭」を開催しました。セレモニーは、日新小学校吹奏楽部の演奏で始まり、今年亡くなったアムールトラなど17種63点の動物に慰霊の献花を行ったほか、動物園の運営に協力いただいたボランティアや学校の活動紹介、地域の学校の学生・生徒から動物園での思い出や、9月に開催した「大森山Arts&Zoo」での作品制作の感想などを発表してもらいました。最後に、高木美保名誉園長から大森山動物園の印象や名誉園長としての活動の感想などをお話いただき、参加者全員で「手のひらを太陽に」を合唱して閉会しました。



セレモニー終了後には、ゾウさん堆肥で作った農産物などの販売や、もちつき大会、ミルヴェンジャー7のステージショーなどが行われ、大勢のお客さままで賑わいました。

⑦ クリスマスイベント 動物園でクリスマスデート 12月23日(水・祝)

男女のカップルに閉園中の大森山動物園をクリスマスのデートスポットとして楽しんでいただき、すてきな思い出作りをしてもらおうと、「動物園でクリスマスデート」を開催しました。当日は12月とは思えないほど穏やかな天候となり、クリスマスの飾りで彩られた園内を29組58名の参加者は、おすすめの見学スポットなどが描かれたマップとウォークウイズの問題を手に、サル山のエサやりやトナカイのどうぶつ解説、オオカミのまんまタイムなどを楽しみました。



後半は、サンタも登場したビジターセンターでケーキや飲み物を食べながらウォークウイズの答え合わせを行い、トナカイやフクロウなど、動物たちとの記念撮影を行いました。雪の無い園内はカップルたちの寄り添う姿でますます暖かくなりました。



⑧ 雪の動物園

1月9日(土)～2月28日(日)の土・日・祝

大森山動物園の冬期開園「雪の動物園」を開催しました。11回目を迎え、大森山動物園の冬期開園としてすっかり定着した「雪の動物園」。今年も、寒さに強い動物が雪と戯れる光景や、厳しい寒さに耐え忍ぶ姿、部屋でぬくぬくと暖を取る様子など、動物個々の冬の過ごし方を見て、冬ならではの動物園をお楽しみいただきました。

期間中は、今年の干支「サル」にちなんだ干支展を開催。サルに関する歴史や豆知識のほか、大森山動物園で飼育している10種類のサルをパネルや写真で紹介しました。職員が描いた大森山動物園で暮らすサルの親子の顔出しパネルは、ご家族、カップル、友達、グループなど来園者に大好評でした。また、3園館連携の取り組みで鶴岡市立加茂水族館からミスクラゲを借りて展示しました。



⑨ ながいちウインターパーク 冬の移動動物園

2月6日(土)・7日(日)

秋田市中心市街地活性化のイベントとして毎年開催されている「ながいちウインターパーク」で「冬の移動動物園」を開催しました。中心市街地で動物園の動物を間近で見ることができる貴重な機会とあって、多くのかたにお越しいただきました。比較的天候にも恵まれ、2日間で合計1,763人が来場し、寒い冬ではありますが、会場は来場者と動物とのふれあいで笑顔あふれる、心温まる移動動物園となりました。



予告 通常開園 3月19日(土)スタート ※11月30日(水)まで

